

経済レポート

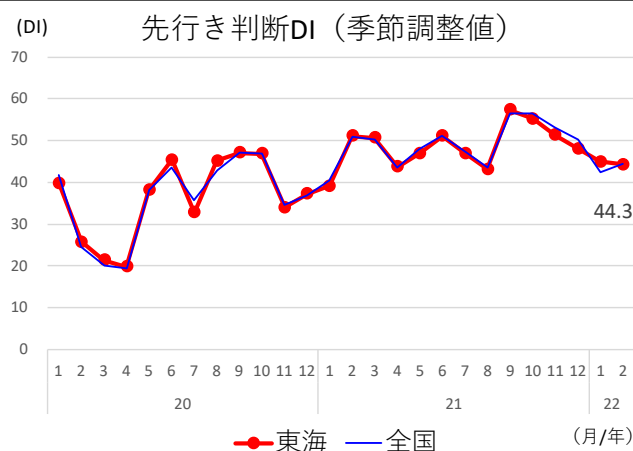
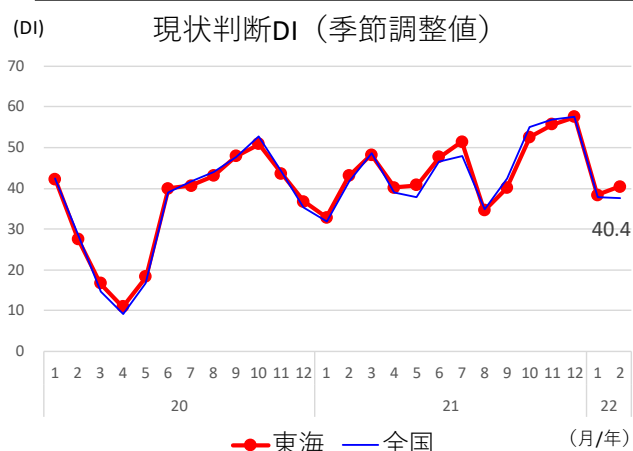
景気ウォッチャー調査(東海地区:2022年2月)

～現状判断は改善するも厳しい状態が続き、先行きは悪化が続く～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 3月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の2月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+2.1ポイントの40.4と2ヶ月ぶりに上昇した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-0.6ポイントの44.3と5ヶ月連続で低下した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルスの感染が収束せず、まん延防止重点措置が延長される中で景況感は厳しい状態が続いている。先行きについては、コロナ感染状況に加え、ウクライナ情勢や物価上昇の悪影響が懸念されている。

とまとめた。

(前月のまとめ)

「新型コロナウイルスの感染が拡大し、まん延防止重点措置が適用される中で景況感は悪化している。先行きについては、コロナ感染拡大や原材料価格上昇によるコスト増への懸念がみられる。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに弱さがみられる。先行きについては、感染症の動向を懸念しつつも、ワクチン接種の進展等による持ち直しへの期待がある一方、ウクライナ情勢による影響も含め、コスト上昇等に対する懸念がみられる。

とまとめている。

(前月のまとめ)

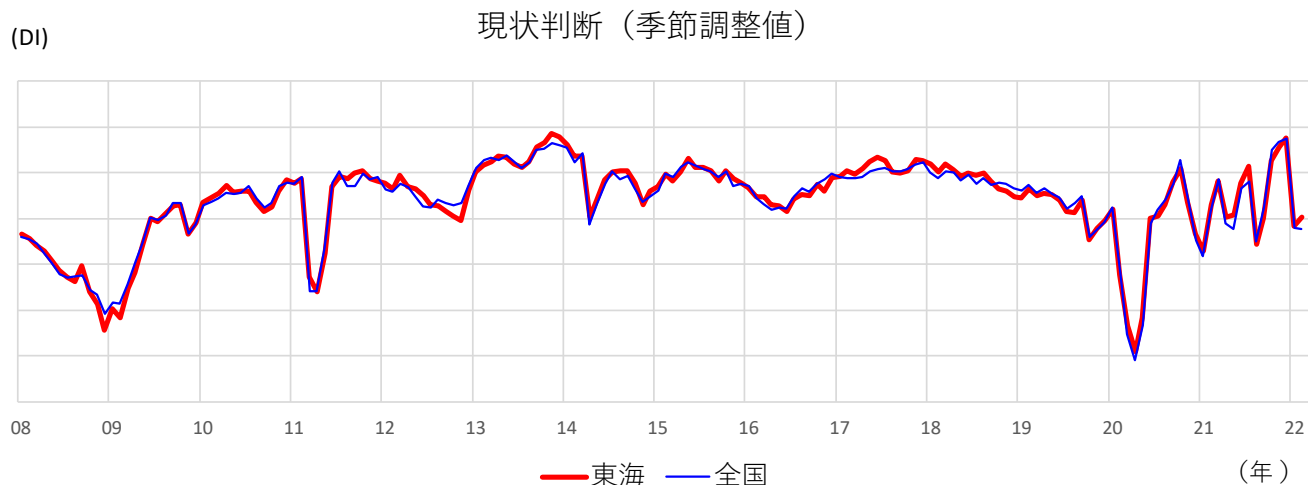
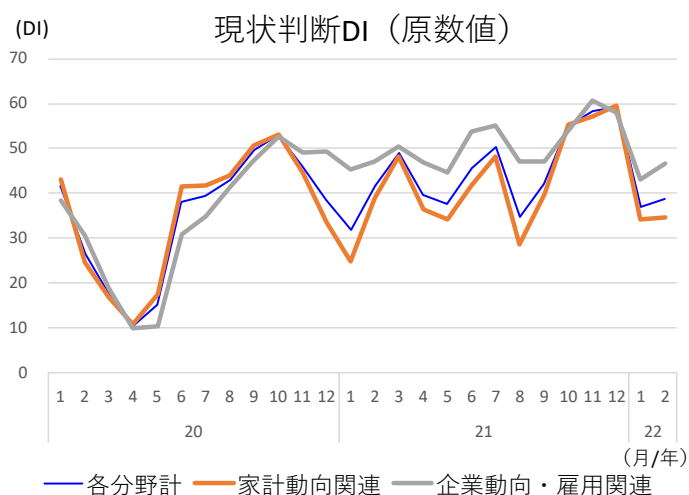
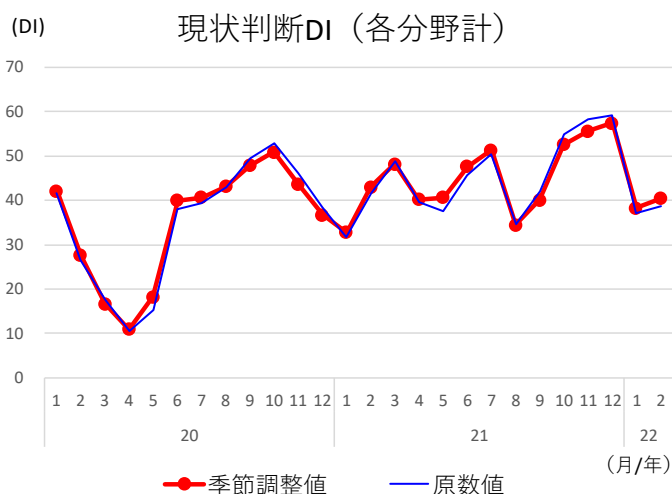
「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに弱さがみられる。先行きについては、持ち直しへの期待がある一方、コスト上昇等や内外の感染症の動向に対する懸念がみられる。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²(季節調整値)は、前月差+2.1ポイントの40.4と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。大幅な落ち込みとなった前月に比べれば改善したが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大が続き、まん延防止重点措置が延長される中で、厳しい状態が続いている。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+0.6ポイントの34.7と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同+3.6ポイントの46.7と3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は226、うち家計関連150、企業・雇用関連76。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) 現状判断理由の概要

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

- 改善方向の回答もあり DI は改善したが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大、まん延防止重点措置の延長により、全体としては厳しい状態が続いている。

○	スーパー (店長)	・まん延防止等重点措置が延長するなか、まだまだ家族感染を中心に新規感染者数が増加し、学校や学級閉鎖による子供の昼食需要で弁当、総菜や菓子等が売れていることが売上増加につながっている。
□	乗用車販売店 (従業員)	・新型車の受注も順調で新車の販売台数も前年並みで推移しているが、ほとんどの車の納車が半年～1年近く掛かる。納期が掛かるため早めに注文を受けているだけで納車はできないため、売上には全くつながらない。ただし、中古車が高額で推移しているため、3年未満で新車に乗り換える客が増えている。
□	観光型ホテル (支配人)	・まん延防止等重点措置が延長され、宴会はもとより宿泊もぼつたりと止まった。食堂は特に夜の利用が減り、一部のレストランでは今まで行ったことのない予約制にせざるを得なくなった。全館で前年比100%だが、新型コロナウイルス発生前の30%以下である。
▲	百貨店 (営業担当)	・2月20日までであったまん延防止等重点措置が3月6日まで延長され、感染症対策を徹底しつつあと2週間を乗り越えようと、外出は最小限にとどめている様子である。来客数は前年の10%減で推移している。
▲	衣料品専門店 (販売企画担当)	・まだまだコロナ禍で、ファッションを楽しむ空気になっていない。バーゲンセールも振るわず手詰まり感があり、現状維持も厳しいところが多い。
▲	高級レストラン (経営企画)	・前回のまん延防止等重点措置の時期と比べ、新規感染者数が多いこともあり、密集となる可能性のある飲食店を避ける傾向が見受けられる。特に、ディナータイムは大幅な落ち込みとなっている。
×	百貨店 (業績管理担当)	・3か月前は緊急事態宣言明けからの影響もあり売上が大きく改善していたが、1月中旬～2月中旬にかけては、まん延防止等重点措置の影響で売上、来客数共に反動で減少している。新規感染者数が高止まりか僅かに減少傾向となり始めた2月中旬からは、少しずつ売上、来客数に改善の兆しがみられる。

【企業動向・雇用関連】

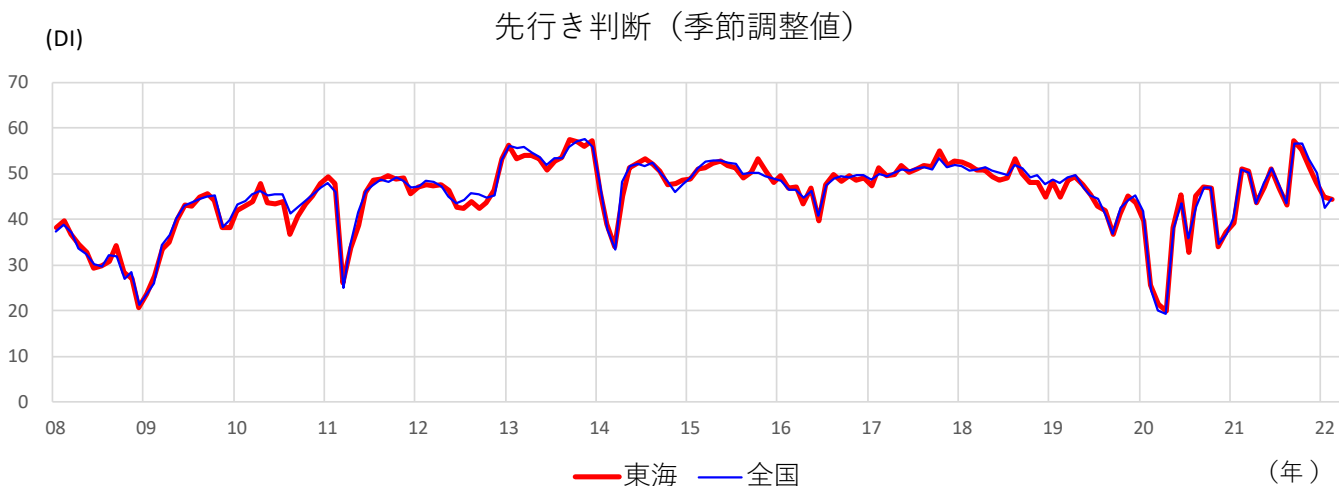
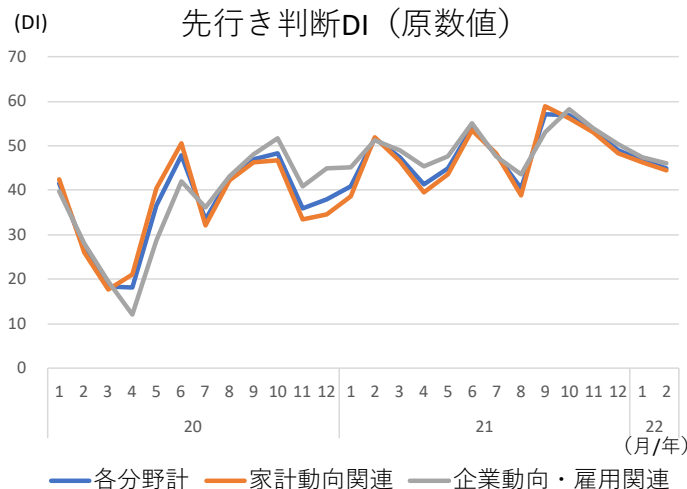
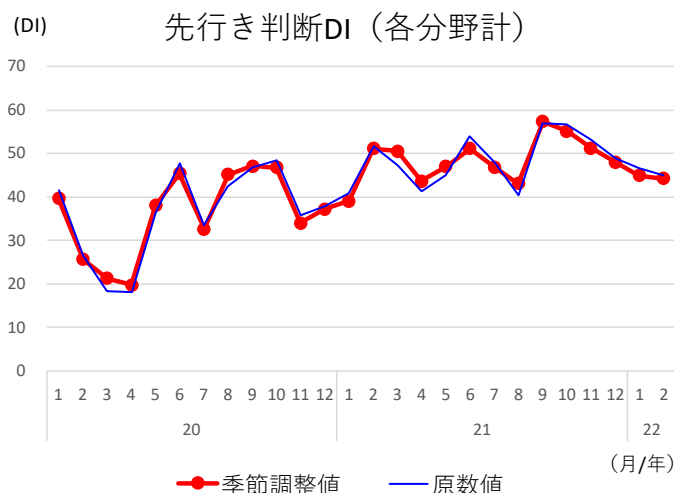
- 雇用関連で改善方向の回答が増えたが、企業動向関連では悪化方向の回答が多い。原材料価格の上昇が利益を圧迫している。

○	職業安定所 (職員)	・新型コロナウイルスの影響は残りつつも、求人者からは人手不足の声が多い。ただし、元々人手不足の分野での求人が多い。
□	金属製品製造業 (経営者)	・受注価格は従来の水準であるが、原材料を始め仕入価格が上昇している。利益が出ない状況である。
□	一般機械器具製造業 (営業担当)	・北米地域でも引き合いは増えてきたが、部品不足により新規製作では納期が間に合わないため、在庫製品がよく売れている。
□	輸送業 (従業員)	・客先の業種により受注量に差がある。機械・工事関係からはそこそこ仕事の引き合いがあるが、自動車関連の仕事は、メーカーが減産体制にあるため動きが鈍い。トータルで考えると、それほど大きな変化はない。
▲	金属製品製造業 (従業員)	・受注状況は芳しくなく、安値受注も出てきている一方でステンレスや鉄の価格高騰は止まらず、収益状況が良くなるとは思えない。ただし、足元の仕事量はどうか前年比で下回らない程度ある。
▲	電気機械器具製造業 (総務担当)	・前年末の半導体不足の影響により、通信機器の生産が止まるまではいかないが原材料費は高騰している。販売価格の見直しはするが利益率低下は免れない。しばらく影響は続きそうである。
▲	輸送用機械器具製造業 (品質管理担当)	・金属類の価格が毎月どんどん上がっており、受注価格と比べると原価率がとても高くなっている。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差-0.6ポイントの44.3と5ヶ月連続で低下した。新型コロナウイルス感染、ウクライナ情勢、原材料価格上昇などによる景気への悪影響が懸念されている。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同-1.8ポイントの44.5と5ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-1.3ポイントの46.1と4ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。



(2) 先行き判断理由の概要

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

- コロナウイルス感染状況に加え、ウクライナ情勢による先行き不安や物価上昇による消費抑制が懸念されている。

□	一般小売店〔贈答品〕(経営者)	・2～3か月先も新型コロナウイルスの感染状況は変わっていないと考えるため、経済活動もこのまま自粛していると思う。特にギフト業界では、客の付き合いが極端に狭くなって会わないようにしているため、その影響が顕著に表れて今の状態が続く。
□	百貨店(経理担当)	・地政学リスクが依然くすぶっていると考えられるほか、資源の価格高騰に伴う値上げが個人消費の減退をもたらすことで、景気はコロナ禍の現在と変わらず悪化した状態が継続すると考える。
▲	スーパー(店長)	・ロシア情勢により物不足が進み、更に物価が上がり消費が落ち込む可能性がある。
▲	スーパー(営業企画)	・ウクライナ情勢により燃料価格の高騰は避けられないなかで、消費はより堅調になると思われる。
▲	家電量販店(フランチャイズ経営者)	・今まで巣籠り需要の恩恵で悪いなりに何とか売上は立っていたがそれも終わり、プレミアム付商品券や給付金もないため前年超えは難しそうである。参議院選挙目当てのばらまき政策で潤うのも未来の増税や業種による不公平感があり、期待したくない。
▲	乗用車販売店(経営者)	・インフレ懸念にウクライナ問題も加わり消費者が将来に悲観的になって、購買行動を控える可能性がある。
×	商店街(代表者)	・物価高といつまでも分からないコロナ禍での生活で、高齢者世帯の購買意欲がなくなってきていると感じる。

【企業動向・雇用関連】

- 輸送機器や雇用関連など一部に改善を見込む声があるが、全体としては厳しい状況が続くとの見方が多い。コロナ禍に加え、ウクライナ情勢による原材料価格の上昇が懸念されている。

○	輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	・完成車メーカーの工場一時停止は、今後改善の方向に向かうといわれているため、2～3か月後には業績は多少回復すると考える。
○	人材派遣業(営業担当)	・外国人新規入国の再開に期待はしているが、新型コロナウイルスの感染再拡大、ロシア及びウクライナ情勢による原油価格に左右される可能性が高い。
□	輸送業(エリア担当)	・ガソリン価格が高くなっているが、配送単価はなかなか上げられないため、収支は悪くなる。
▲	食料品製造業(経営企画担当)	・ガソリンのほか生活必需品の価格高騰が家計を圧迫し、消費はますます冷え込む。
▲	パルプ・紙・紙加工品製造業(顧問)	・新型コロナウイルス感染症の影響も大きな要因であるが、主要原材料の値上げが実施され、製品販売価格にすぐ反映できる様子はなく収益面でも非常に大きな圧迫を受けるため、景気はやや悪くなる。
▲	輸送業(経営者)	・コロナ禍での消費減少にウクライナ情勢による資源の価格高騰も加わり、消費は更に落ち込むと考えられる。
▲	会計事務所(職員)	・原材料の価格が高止まりしているが、販売価格に転嫁できていないためメーカーが値上がり分を負担している。また、ロシアのウクライナ侵略の影響でこの先原油などの価格がますます不安定になると予想され、景気が良くなる要因がない。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。